

校長だより

福津市立福間東中学校
校長 猪股 清貴
平成 28 年 12 月 22 日 No50

さらなる成長を目指して



インフルエンザの影響を考え体育館での全校集会を見合わせました。全校生徒がそろった中で皆さんの顔を見ながら確認したかったこと、伝えたかったことをここにまとめます。10月11日にスタートした2学期前半の

全校的な学校行事は合唱コンクールを中心とした文化祭、クラスマッチ、研究発表会、生徒会選挙でした。みなさんは一つ一つの行事を見事に成功させてきましたが、その裏には、いくつもの困難があったはずですが、クラスの中でもいろんな衝突があったことでしょうか。しかし、そこから逃げずに解決しようと努力する姿勢が皆さんの成長を確かなものにしていきます。中でも、全校生徒 500 名以上による合唱にチャレンジできたことは我々教師にとっても貴重な財産となりました。なぜなら、東中の生徒は鍛えればもっともっと伸びるということを改めて証明してくれたからです。

我々も心を一つに取り組んでいることを伝えたくて、初めての職員合唱に取り組みました。生徒の真剣な合唱への取り組みを応援したい。その一心で放課後部活動の指導が終わった後にパートごとに集合し練習を重ねました。出来栄はさておき、一生懸命な姿は皆さんにも伝えることができたと思っています。そこで、みなさんに伝えたいことは以下のことです。

リオ五輪のシンクロ日本代表として、デュエット、団体ともに見事銅メダルをもたらした、その厳しい指導ぶりから「鬼コーチ」の異名も取る井村雅代さんは、伸びる選手の条件として2点挙げています。一つは「人の言葉に心のシャッターを下ろさない選手」です。人の言葉を耳で聞き、頭で聞き、心で聞く選手。もう一つは「心の才能を持った選手」です。心の才能とは、自分で限界を決めないこと。できないことにぶつかったときに「ああ私の努力が足りなかったん。だったらもっと努力しよう」と素直に思って一ミリでも自分を高めようとする選手です。とはっきりおっしゃっています。そして、さらにこうおっしゃっています。

「諦めるのはいつでもできる。だから、諦めたらあかん、諦めたらもう終わりです。でも、そこで頑張り続けたらそれが当たり前になる。当たり前になったらまた前に行くんです。だから、自分で限界を決めたらダメ。自分の可能性を信じなさい。思わぬ可能性が自分には秘められているんですよ。ですから、心の才能があって、心のシャッターを開けていたら人って変われますよ。そして、そういう自分を助けてくれる人は世の中にいっぱいいるんです。」

先生たちも君たちの頑張りを一致団結して精一杯応援しています。18日間の冬休み。自分自身の心の才能をさらに磨き、よりたくましく成長した皆さんと1月10日に逢えることを楽しみにしています。

